

# Weekly コラム

令和元年 11 月 19 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

## 活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

## 構造転換

デジタル革命、AI(人工知能)がさらに動き出すことにより、あらゆる業種の勢力図がガラリと変わる可能性があると言われていています。実際、アメリカの小売業界では「アマゾン社」などのオンラインショッピングの台等で、創業100年以上の歴史を誇る小売り大手の「シアーズ」などの有力企業が相次ぎ幕を下ろすことになりました。

このような急激な市場の変化に真正面から向き合い、勇気のある決断と大胆な行動によって、さらに輝きを増している日本企業が「富士フィルム」です。

「富士フィルム」は2000年当時、売り上げの6割、利益の7割を締めていた写真フィルムのビジネスを、4～5年であっという間に失う危機に直面します。

カラーフィルムの世界需要が、2000年に向けて成長し続けピークをうった後、2002年から急減していったのです。そして10年しないうちに20分の一になってしまいます。写真フィルムの技術は180年かけて進化した素晴らしい技術でしたが、一瞬にしてデジタル技術に置き換えられてしまったのです。

2000年に社長就任した現富士フィルムホールディングス会長の古森重隆氏は「本業消失危機」という強い問題意識を持ち、「第二創業」に向けてチャレンジしていきます。就任当時、社内に対して次のようにゲキを飛ばされました。

「富士フィルムの現状をトヨタ自動車に例えれば自動車がなくなるようなものだ。新日鉄に例えれば鉄がなくなることだ。写真フィルムの需要がどんどんなくなっている今、我々はそうし

た事態に真正面から対処しなければならない」と。

そして「富士フィルム」は、写真フィルムで培った技術を生かせる分野がないかを徹底的に精査し、フィルムの主原料である「コラーゲン」、フィルムの劣化を防ぐ「抗酸化技術」などを応用し、「化粧品・医薬品・半導体材料」などの新規事業を立ち上げ、ビジネス化することに大成功しました。

新規事業で成功するには険しい道のりがあります。「歴史に残るような成功事業」も、最初は社内に根強い反対があったものが多いと聞きます。

富士フィルムの構造転換の成功には学ぶべき事が多くあります。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。